

# 不測の事件・事故発生時の対応について

キャンパスライフ・健康支援センター 学生相談室

吉良安之 松下智子

## 大学における事件・事故

- ▶ 正課授業（実習・フィールドワーク）や課外活動での学生の事故  
（実験・実習中の大怪我、移動中の交通事故、遭難・水難事故）
- ▶ 学外や学内で学生が関係する事件  
（自殺、傷害、性的被害、ストーキング、急性アルコール中毒）
- ▶ 学内で学生への緊急対応が必要となる問題  
（錯乱・興奮、暴力行為、自殺のおそれのある危険な行為など）

## 事件・事故発生時の危機状況

- ▶ 突然発生する  
(前触れなく日常の中に突然割り込んでくる)
- ▶ 予想外・想定外の一過性の出来事  
(未経験の事態に模索しながら対応が必要)
- ▶ 当事者だけでなく関係者や対応する人も動揺する  
(動揺・混乱は周囲に拡がりやすい)

# 大学コミュニティにおける危機

- ▶ 個人レベルのもの  
(特定の個人に生じた危機：その個人への対応)
- ▶ 小集団レベルのもの  
(集団内の人間関係が絡む問題、研究室や部活のメンバーなど周囲の人たちへの対応が必要な問題)
- ▶ 部局や大学全体のレベルのもの  
(学生が大学組織への不満や怒りを訴える)  
(大学のセキュリティが脅かされる恐れ、大学のイメージ低下につながる不祥事)

## 急性ストレス反応（ASD）

◎ 外傷的出来事を直接または間接的に体験した直後から  
数時間～数日の反応

### ▶ フラッシュバック

その出来事の記憶が繰り返しよみがえり、制御できない

### ▶ 感情の麻痺、周囲への集中力低下、ぼーっとする

### ▶ その出来事に関連した出来事や事柄を避けようとする

### ▶ 過覚醒 神経が高ぶり、不眠や不安

## 心的外傷後ストレス障害（PTSD）

### ▶ 上記の状態が1ヶ月を超えて持続する場合

## 事件・事故発生時の心身の反応

行動 の反応	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 神経過敏</li><li>・ ひきこもり</li><li>・ 食欲不振・過食 飲酒や喫煙の増大</li></ul>
こころ・ 思考 の反応	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 睡眠障害 恐怖の揺り戻し 強い不安</li><li>・ 孤立感 意欲減退 イライラ</li><li>・ 気分の落ち込み 自責 無気力</li><li>・ 判断力や決断力の低下</li><li>・ 選択肢や優先順位を考えつかない</li></ul>
からだ の反応	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 頭痛 筋肉痛 胸痛</li><li>・ だるさ めまい 吐き気</li><li>・ 下痢 胃痛 風邪を引きやすい</li><li>・ 動悸 震え</li><li>・ 発汗 持病の悪化</li></ul>

# 悲嘆反応

## ▶ 悲嘆反応

愛する者や近親者を亡くしたときに生じる深刻な喪失体験

## ▶ 喪の作業

喪失の悲しみを乗り越えて回復するまでに至る一連の心理過程  
年単位の心の作業の場合も（記念日反応）

「ショック・否認」（現実感を持ってない、感情がわからない）

「悲しみ・怒り」（出来事への理不尽さ、反発・怒り）

「罪悪感・うつ」（あのとき～していれば、むなしさ・絶望）

「疲労感・無力感」（疲れ果てる、何もできない）

# Psychological First Aid

『心理的応急処置（サイコロジカルファーストエイド：PFA）  
フィールド・ガイド』（2011）

著：世界保健機関（WHO）、戦争トラウマ財団、ワールド・ビ  
ジョン・インターナショナル  
訳：（独）国立精神・神経医療研究センター、ケア・宮城、公益  
財団法人プラン・ジャパン（2012）

[https://saigai-kokoro.ncnp.go.jp/pdf/who\\_pfa\\_guide.pdf](https://saigai-kokoro.ncnp.go.jp/pdf/who_pfa_guide.pdf)

- ・話を聞くが、話すことを無理強いしない
- ・ニーズや心配事の確認
- ・安心させ、心を落ち着けるように手助けする
- ・それ以上の危害を受けないように守る
- ・社会的支援を得るための手助けをする



心理的応急処置  
（サイコロジカル・ファーストエイド：PFA）  
フィールド・ガイド



## 不測の事態に対応するうえで重要になること

- ▶ ショックを受けている目の前の人を安心し、心を落ち着けることができるように心がける
- ▶ 何をしたら目の前の人を安心できるか、安全を確保できるかを基準に判断
- ▶ 他にも対応すべき人がいないかどうかを見回して判断する
- ▶ 警察・医師・カウンセラー等に連絡し、つなぐ

### (留意点)

- ▶ 日頃から信頼関係を持っている人が対応すると安心する
- ▶ 話を聞くときは、無理強いをしないこと、プライバシーが守れる空間で聞くこと

## 事件・事故の予防・教育①

- ▶ 自然災害や自然に関係する事故
  - ・フィールドワークや課外活動を行う際の安全のマニュアルと事前教育、保険への加入
  - ・事故にあった際の連絡先や連絡手段の確保
  - ・安全の確保を最優先にする
- ▶ 見知らぬ人からの事件に巻き込まれる
  - ・不審者情報などがあれば速やかな注意喚起、警備の強化
  - ・警察への相談

## 事件・事故の予防・教育②

### ▶ 見知った人間関係における事件

人間関係のこじれ、ハラスメント等の問題は、第3者にも入ってもらふことの必要性を伝え、複数人数で事実の共有を行い、対応を考える

傷害事件などの恐れがある場合、事前に対応を考えておく（警察に相談、安全の確保）

### ▶ 個人の病気等による事件・事故

様子がおかしいとき、SNSなどで心配な言動を繰り返しているときなどは、声をかけて話を聴き、心配な時には支援者を増やすことを提案する

- ・ 場合によっては、保護者への連絡
- ・ 対応困難時には、専門機関への相談

100%予期できないから、不幸な事件・事故が起こる

責任追及より、皆で対応を考えることが重要

# 緊急支援の必要性

## ▶ なぜ緊急支援が必要か？

- 1) 事件・事故などの緊急事態に直面すると、学生・教職員に様々な予想外の反応が起きる
- 2) 事件・事故とかがわりが深い、もしくはもともと何らかの問題を抱えていた学生・教職員は、心身の状態が悪化する可能性がある
- 3) 事件・事故について、不正確な情報が憶測を呼んだり、コミュニティに疑心暗鬼が生じる危険性がある

# 九州大学での緊急対応

休日などの警察からの連絡は、まず総務部総務課に入る

総務部総務課

学務部学生支援課

キャンパスライフ・健康支援センター

コーディネーター室

医師・保健師

カウンセラー

連携

緊急支援チームの編成

情報共有

部局

緊急事態

学生

家族

学生寮  
アパート

部活  
サークル

コミュニティへの支援

当該学生への支援

# 学内で緊急対応を要する事案が起きた時

- ▶ 学生が屋上に座っている
- ▶ 授業中に過呼吸発作を起こし、意識を失った
- ▶ 廊下で急に叫びだしたり、笑ったりして様子がおかしい
- ▶ 学内で事件に巻き込まれた

## 1) 当該学生、周囲の人の安全の確保

落ち着いた声で声をかける、安全な場所に移動させる

## 2) 話を聴く・応援を頼む

騒々しくせずに、学生の様子を見ながら、事情を尋ねる

## 3) 対応を考える

必要に応じて本人の許可をとって、学内の相談機関や保護者に連絡する  
病院への搬送は、保護者へ連絡、家族に迎えに来てもらう

## 緊急支援の初期対応

- ▶ 緊急支援や緊急対応は、一人ではなく複数名（チーム）で行い、メンバーが把握している事実を共有する
- ▶ 事件・事故が起きているときやその直後は、学生の安全を確保することを最優先する
- ▶ 事後対応は、事件・事故後、24~72時間以内に対応することが望ましいと言われている
- ▶ 役割分担をする際、学生から見て、担当の所在が不明瞭にならないよう気をつける（だれに何を相談すればよいのか明確にする）

## 学生への対応・支援

- ▶ 事件・事故で被害を受けた学生と関わりが深かった学生
- ▶ 直接被害を受けたり目撃したりした学生
- ▶ 責任を感じている学生
- ▶ もともと何らかの問題を抱えている学生

→事後対応の実施の仕方について検討する

→動揺が強い（と思われる）学生への対応を考える

事件・事故の説明、恐怖体験や喪失体験後の心身の反応についての説明、クラスや研究室単位で行うか、個別面接の必要性はあるか、専門家（医師・カウンセラー等）の入るタイミングなど。



## 学生への話の聴き方①

### 被害者等が女子学生であった場合に特に配慮すべき点

- ▶ 話を聞く側も事件や事故の話を落ち着いて聞くことが難しいときもあるので、一人ではなく、複数で話し合って対応する。  
→異性の感じ方は想像しにくい場合もあるので、対応するチームや面談者に男性・女性どちらもいた方がよい。
- ▶ 被害場面を彷彿とさせるようなシチュエーションにしないことに留意する。面談する部屋の状況や面談者の人数・性別などに配慮する。  
→一般に、異性からの被害を受けた学生に対しては、同性の面談者が対応（同席）した方がよい。
- ▶ 面談の進め方（誰が、どのような話を（目的）、どれくらいの時間で行う予定か）について、最初に説明し、学生の意向を確認しながら進める。

## 学生への話の聴き方②

### マニュアル的な対応の留意点

- ▶ 男性・女性という視点に縛られ過ぎると、性同一性（ジェンダー・アイデンティティ）に配慮した対応や性役割への偏見につながる場合もあるので、注意が必要。
- ▶ 障害学生や留学生などのマイノリティ学生においても、面談者が、障害や異文化による感じ方を、十分に理解しにくいこともある。
- ▶ 本人のよき理解者（安心・信頼できる人）がいる場合には、本人の了解を得て、同席してもらうことも考える。

## 学生への話の聴き方③

- ▶ 混乱・動揺してうまく話せないこともある。事実確認が必要な場合もあるだろうが、せかさずに学生のペースを待ちながら聴く。
- ▶ 平気そうに見える場合でも、感じないようにしているだけの状態であったり、ショックで現実感がない状態にある場合もある。
- ▶ 内心は色々な気持ち（罪悪感、恥、怒り）を抱えて苦しんでいる場合があるので、安易に大丈夫だと決めつけない。
- ▶ 事件など辛い体験の話は大切に聞き、厳密な追求をしない。無理強いせず、話せる部分を話してもらおう。

## 学生への話の聴き方④

- ▶ 面接の後に、対応チームで話し合い、学生に確認し忘れていないか、今後の対応についてどう説明するか等を考える。
- ▶ 話を聴いた後は少しクールダウンの時間を取り、学生の直近での心配事項や帰宅できる状態であるかどうかなどを確認する。
- ▶ 話す内容（言葉）だけでなく、表情や体の状態にも注意を向け、面談の時間についても配慮する。

親身になって、学生の安心感・安全感に配慮した関わりを心がける

## 教職員への支援

- ▶ 事件・事故で被害を受けた学生に対応する教職員
- ▶ 事件・事故で被害を受けた学生と関わりが深かった教職員
- ▶ 直接被害を受けたり目撃したりした教職員
- ▶ 責任を感じている教職員

→複数名（チーム）で、今後想定される事態にどのように対処すべきか準備を行う。互いに協力し合う気持ちを大事にする。

事件・事故後、初めて学生と会う際に、どのように声をかけるか、事件・事故のことにどの程度触れるべきか

→教職員自身が疲弊したり、ショックを受けたり、激しく動揺することがある。心身の不調も起こり得るため、教職員を支える必要がある。

# 学生の保護者・家族への対応

## ▶ 保護者・家族の協力

恐怖体験や喪失体験をした学生にとっては、安心できる家族のもとで過ごすことがよい場合がある。一方で、家族に話したくないという学生もいるため、**学生の意向と安全な環境を確認していくことが必要**。

## ▶ 事件・事故についての質問

事件・事故で**被害を受けた学生や保護者への配慮の必要性**を伝え、公表可能なことのみを伝える。

## ▶ 大学の管理下の事件・事故の場合

保護者から大学の責任を追及されるような事態もある。誠実に対応しながら、事件・事故の原因にどのように伝えるか、慎重な調査と協議が必要。

# メディア、警察対応、その他

## ▶ メディア対応

広報窓口の一本化、記者会見をする際の準備、  
学生への取材及び匿名報道についての配慮要請

## ▶ 警察対応

事件・事故の事実報告について警察の確認をとる  
学生・教職員が警察の事情聴取の対象となる場合、当該学生・教職員  
の心身の状態や安心感に配慮する

## ▶ 葬儀への参列など

事件・事故で学生・教職員が亡くなった場合、献花の取り扱い、通夜  
や葬儀への参列について、当事者の家族に了解をとる  
参列する学生への支援

# キャンパスライフ・健康支援センター

<https://www.chc.kyushu-u.ac.jp/~webpage/>

九州大学キャンパスライフ・健康支援センター  
KYUSHU UNIVERSITY

アクセス

HOME 新着情報 センター

学生の方へ **教職員の方へ** ご家族の方へ

新着情報 NEWS

すべて

2020.09.04	全体	9月7日(月) 閉室のお知らせ
2020.09.03	健康相談室	【重要】9月24日(木)、28日(月)、29日(火)、30日(水) 学部...
2020.08.21	健康相談室	【重要】8月28日(金)~9月4日(金)の学生定期健康診断の中止
2020.08.17	健康相談室	【重要】8月28日(金)、31日(月)の学生定期健康診断について
2020.07.28	健康相談室	【重要】8月4日(火)、5日(水)、6日(木)、7日(金)の学生定期...
2020.07.20	健康相談室	7/23、24、8/10 健康相談室閉室のお知らせ
2020.07.09	全体	7月10日の臨時閉室のお知らせ
2020.07.07	全体	2020年度学生定期健康診断(Web問診)について

新着情報のアーカイブ

## 悩みを抱えた学生のサポートをするために

学生時代には学生は多くのストレス（例：修学、対人関係、家族の問題、経済面）を経験します。多くの学生がいますが、学生の中には自分ひとりでは対処できず困難な状況に陥ってしまうことがあります。心理的ストレスは体感がありますが、教職員の方はそれにいち早く気づくことができる可能性がある立場にあります。すべての学生に手を差し伸べても拒否されることもあるかもしれませんが、しかしながら教職員の皆さんからの関わりや声かけは、学生にとって非常に重要な役割を果たす可能性があります。ぜひサポートの手を差し伸べてみてください。

### 問題を抱えた学生のサインを発見する

### 学生と面談する際に

### 相談機関の勧め方

### 学生が相談には行きたくないと思ったら・・・

### 学生が相談機関に行くことに同意をしたら・・・

### 守秘義務について



## 業務

**学内緊急時対応のご連絡・ご相談は、  
コーディネーター室（802-6020）が窓口となっています。**

### (1) 学内外連携

学内各種相談窓口や、学外支援機関、保護者等と連携することで、学生・教職員への支援が円滑に行われるようサポートします。また、対応に困っている関係者に対し、コンサルテーションを行います。

### (2) 早期対応

<学生>

新入学生を対象とした「新入生面接（5月）」や、単位取得に難しさのある学生（休学からの復学者を含む）を対象とした「スタートアップ説明会（9月・3月）」、特定の授業を連続で欠席した学生へのアプローチなどを行います。

<教職員>

職場の上司や産業医、学外支援機関とともに、本人が必要な支援につながるような早期から対応します。

### (3) 緊急時対応

事件・事故・自殺等が起きた場合は、学内関係部署と連携して対応します。事後対応チームの調整的役割を担っています。

### (4) 心理教育的活動

授業や研修、グループ活動、セルフケア資料（心身の健康増進に関するセルフケア・スキルの情報を掲載）の作成・配布を通じて、学生や教職員に対して予防的・開発的な支援を行います。

### (5) 全学の学生・教職員支援体制構築に向けた提言

様々なデータを分析し、学生・教職員のニーズ把握に努めます。また、キャンパスライフ・健康支援センター内の他部門と連携して、必要な支援体制の構築に向けた提言を行います。

※学生・教職員におけるキャンパスライフ・健康支援センターの利用情報に関する問い合わせには、ご本人の同意がない限りお答えすることはできませんので、予めご了承ください(緊急時を除く)。

## フォローアップ

- ▶ 各部局で緊急対応が必要な場合、キャンパスライフ・健康支援センターに協力要請があれば、コーディネート室を窓口として、医師・カウンセラー・保健師等がご相談に応じています。
- ▶ 学外医療機関、警察、その他関係機関への協力依頼を行う場合もあります。
- ▶ 事件の内容によっては、半年～1年～学生の在学期間中にわたり、フォローする場合もあります。

## 参考文献等

- ▶ 学生相談ハンドブック 日本学生相談学会編 学苑社
- ▶ 学校コミュニティへの緊急支援の手引き 福岡県臨床心理士会編 金剛出版
- ▶ 教職員のための学生サポートブック 九州大学（2012年度改訂版）
- ▶ [https://www.pref.ibaraki.jp/kenkei/a07\\_toiawase/victim/general.html](https://www.pref.ibaraki.jp/kenkei/a07_toiawase/victim/general.html)
- ▶ <http://victims-mental.umin.jp/ssn-snr/06-2.html>